

茅の輪祭り—7月31日、須々岐水神社で行われる大祓祭(おおはらいさい)

(6月30日に行われる祭りであるが、屋代ではひと月遅れの7月末に行われる)



屋代町を10区に分け、各々が5灯ずつ献灯。(計50灯)



茅の輪:「茅がや」を束ねて作られた大きな輪



最初に宮司、氏子総代が茅の輪を潜って神殿に進む

(昔は1年を2季として「^{なごし}夏越」と「年越」の2回、暦が改まった)

夏越(旧暦6月晦日)に、年が改まるということで、身を祓い浄める「禊(みそぎ)行事」として行われたのが「茅の輪くぐり」である。

「茅がや」を束ねて作られた「茅の輪」をくぐると身が清められる、とされる。「知恵の輪」と呼ぶ人もあり子供がくぐると、丈夫で頭が良くなる、とも言われてきた。



◆須々岐水(すすきみず)神社 (千曲市屋代)

- ①郷社(屋代の人々の氏神様)であり、水の神様で、屋代用水の守護神。江戸時代の屋代堰下(せぎしも)18か村の総社。
- ②歴史は古く「祝神社」だったという説もある。天明元(1781)現社号に改める。
- ③1843(天保14)の大火により類焼。1851(嘉永4)に鳥居、本殿を再建する。
- ④本殿の彫刻は諏訪の立川和四郎・富昌によるもの。
再建に際し、たまたま八幡・武水別神社の再建に従事していた立川和四郎に、この工事も承諾してもらったという経緯がある。
- ⑤境内には、祝神社、高市大神社、秋葉社、天満宮、八幡社、栗島神社、疱瘡社などのお社がある。



本殿 (富昌の彫刻が有名)



神社の鳥居と拝殿